

国家戦略会議・人材ウィーク ～次世代の育成と雇用創出～

4月9日（月）の国家戦略会議において、日本再生の鍵として、人材の育成と確保について、集中的な議論を行いました。民間議員からのご提言やその議論を検証、深化させるため、“人材ウィーク”として、人材育成の現場視察や、関係者との意見交換を行いました。

＜“人材ウィーク”で議論すべき主な論点と関係する政策課題＞

世界の人材輩出国への飛躍

世界で活躍し、イノベーションを起こす人材を社会に輩出するためには？

- ギャップイヤー導入に向けたロードマップの策定
- その活用による青年海外協力隊等海外ボランティア活動への参加促進 等
- 海外留学の推進
- 外国人教授の積極的採用（倍増）
- 海外大学等との連携（単位相互認定、ダブル・ディグリー） 等

層の厚みの確保

多くの多様な人材を含む中間層が、活躍し続ける環境をどのように構築すべきか？

- 中小企業と地元高等専門学校等との連携
- 成長産業に対応した高等専門学校の増設 等
- 農業の新規就労の促進 等

＜現場視察・意見交換のスケジュール＞

国家戦略会議・人材ウィーク			
	4月9日（月）	4月13日（金）	4月14日（土）-15日（日）
題目 場所	「国家戦略会議」		
テーマ	■ “世界の人材輩出国”へ ■ “層の厚み”確保 ■ “自立支援”	■ “世界の人材輩出国”へ～青年海外協力隊と国家戦略を考える～	■ “世界の人材輩出国”へ ■ “層の厚み”確保
視察・意見交換 先別の主な政策課題	（民間議員からのご提言をいただく）	青年海外協力隊経験者との意見交換 ■ ギャップイヤー導入に向けたロードマップの策定 ■ その活用による青年海外協力隊を始め海外ボランティア活動への参加の促進 等	国際教養大学 ■ 海外留学の推進 ■ 外国人教授の積極的採用（倍増） ■ 海外大学等と連携（単位相互認定、ダブル・ディグリー）等 秋田工業高等専門学校 ■ 中小企業と地元高等専門学校等との連携 ■ 成長産業に対応した高等専門学校の増設 等 農業法人たねっこ ■ 農業の新規就労の促進等

「国家戦略フォーラム ～青年海外協力隊と国家戦略を語る～」の概要（報告）

1. 趣旨

JICA 青年海外協力隊参加者と意見交換し、海外ボランティアを通じた若者の人材育成の現状と課題を検証する。

2. 開催概要

日にち：平成 24 年 4 月 13 日（金）18:00～19:30

場所：JICA 地球ひろば 東京都渋谷区広尾 4-2-24

出席者：古川 元久 国家戦略担当大臣

緒方 貞子 国家戦略会議議員（（独）国際協力機構 特別顧問）

田中 明彦 （独）国際協力機構 理事長

窪田 保 平成 16 年度 1 次隊 モザンビーク 理数科教師

北川 亜友美 平成 19 年度 1 次隊 ラオス 村落開発普及員

菊谷 通 平成 20 年度 4 次隊 パラグアイ 村落開発普及員

三船 正喜 平成 16 年度 2 次隊 セネガル 村落開発普及員

石塚 咲 平成 21 年度 3 次隊 マダガスカル 青少年活動

日野間 佳子 平成 15 年度 2 次隊 ルーマニア 青少年活動

3. 主な意見等

- ・青年海外協力隊は、日本語が通じない国で、異なる文化や生活に溶け込みながら、現地の人々とともに活動することで、外国語の習得だけでなく、最後まであきらめない忍耐力、コミュニケーション能力、人間力を高めることができ、今の日本の企業が求めるグローバル人材の育成に、有効なキャリアパスとなっている。

- ・海外ボランティアの経験は、単に外国を知るだけでなく、日本人や日本文化について、深く考えるきっかけとなり、国内外に広い視野をもつ若者の人材育成にも資する。

- ・一方で、日本の官公庁、企業では、一部を除いて、青年海外協力隊といった海外ボランティアへの理解は少なく、多様な人材を受け入れる素地を養う必要あり。

- ・若者の人材育成に海外ボランティアが有効であり、そのための施策として、ギャップイヤーの導入、官公庁の通年採用の前倒しに取り組むべき。

- ・人材育成は即席でできるものではなく、10 年、20 年先を見据えて、小中学校などで、教員免許がなくても、海外ボランティアの経験者を教員として採用し、子どもたちに、多様な仕事や価値観を教えることも重要。

- ・大学の 9 月入学導入に向け、高校を卒業する 3 月から 9 月までの期間についても、国内外へのボランティア活動などが可能となる制度の検討が必要。

以上